

世界一の千葉モノレールを探ろう

日時：令和4年9月17日（土）13：10～15：30

場所：千葉モノレール車両基地

参加者：12名

講師：千葉都市モノレール運輸部車両課 林達也先生



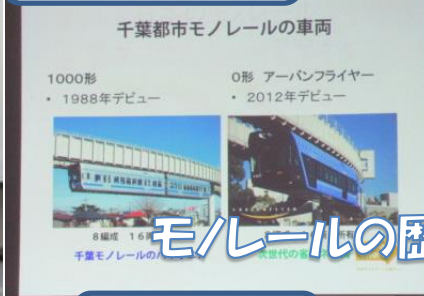
林先生

整備担当も、運転手も
やっていました！

創業時の第1号車両

と記念撮影

車両のレジェンド



モノレールの歴史や利点を学びます



車両の定期的な点
検をしています

快適・安全のための設備を見学しました



電気を取り入れる
装置です



スムーズに加速す
るための装置です



このセンサーで、急に扉が
開かないようにしています



タイヤは消耗品 日々の点
検・交換を欠かしません

最新車両と記念撮影

駅で停車すると
水が落ちてる…



【受講生の感想】

- モノレールの洗車を間近で見られたり、普段入れない所に入れたり、写真も撮れたり、汽笛を鳴らしたりして、今までで1番楽しい講座でした。大人になったらモノレールに就職したいと思っていました！
- いつもの安全がこのような風を守られていると思うと、とてもすごい仕事なんだ、と気付かされました。
- 世界一のモノレールを作るためにどのような開発をするために動いているのかについて、よく分かったので、違う視点でモノレールを見たくなりました。
- モノレールの動く仕組みや、洗車のやり方がわかりました。また、0形と1000系の、スピードのちよっせつのやり方がちがうのが驚きでした。
- モノレールは普通の電車と同じようなものだと思っていましたが、だいぶ違うことがわかりました。タイヤからお金のことまで、いろいろなことについて、よく分かったのでよかったです。
- 普段見られないような車庫の中を見られて、とても興味深かった。人が乗るものだからこそ気にするような細かな工夫も見られて楽しかった。モノレールは沢山の人のために支えられているのが解った。部品の一つ一つに理由があり、1000型や0型にある違いも知る事ができた。
- 普段絶対に見られないモノレールの内側をすみずみまで見せていただいて、嬉しかった。益々モノレールが好きになった。抵抗の仕組みを実験にも利用したいと思った。良い思い出になった。
- 洗車はとてもすごい水の量を使い人の手でふかないといけないので大変だなと思いました。
- モノレールがどうやってぶらさがっているか、分からなかったけどタイヤがケースみたいなのに入っているという事に驚いた。思っていたよりタイヤの値段が安くて、25万kmという長い距離を走れる事に驚いた。